

廃校した5小・中学校の校歌 CD化

懐かしの音色再現

田端教授短八戸大、村に寄贈



新郷

統合で廃校になった新郷村の五つの小・中学校の校歌を、八戸短大幼児保育学科の田端利則教授が楽譜を基にパソコンで再現した。同郷会などで活用してもらおうと、現存する学校の校歌などと合わせ13曲入りのCDにして17日、村に10枚を寄贈した。(久保信行)

校歌のCD化は八戸大・短大総合研究所が県の委託事業として取り組み「地域力再生・校歌のCDを須藤村長④に手渡す田端教授

創出資源調査分析」事業の一環。昨秋に田端教授が村教委から楽譜を取り寄せ、メロデー部分はフルートの音、伴奏はピアノの音で、それぞれパソコンで再現した。

収録されたのは、1980(昭和55)年から2011年にかけて廃校になった清水、田茂代、長崎、川代の各小学校と戸来中学校の校歌。ほかに川代小中学校教諭が作った「川代校章歌」、校歌のなかった小坂小(05年廃校)児童が歌った「新郷村学校歌」や、現存する4小中学校の校歌もパソコン演奏で収録した。

付録として同村出身で八戸大元准教授の坂本悦雄さんが作詞、故安藤睦夫氏(北上夜曲の作曲者)が作曲した新郷村賛歌「こころのふるさと」と「青春の